



かどわきっ子

大野木場小学校便り No.9
令和6年 8月 9日(金)
南島原市立大野木場小学校
校長 森田 純弘

原爆の日

79年前の今日、長崎に一発の原子爆弾が投下され、多くの方々が犠牲になりました。そのことを悼み、平和への誓いを新たにするため、県下ではすべての学校が本日を登校日にしています。

大野木場小学校でも、平和集会を実施し、4年生が総合的な学習の時間や社会科見学で学んだことについて発表してくれました。今年折った折り鶴は、今の3年生が、来年平和公園に持って行ってくれます。各学級の平和への誓いの発表、歌「この時代に」の合唱を通して、平和への学びを深めることができました。

「この時代に」という歌は、馴染みがない方が多いかもしれません。合唱曲「Smile Again」を作詞・作曲した中山真理さんが作られました。とても感動しましたので一部を紹介します。ぜひお子さんに歌ってもらってください。

おじいさんは言った 偉くなろうとか
認められようなんて 考えない方がいい
愛する大事なもののために 力尽くしたら
何も残らないのが当たり前だから
人と比べることで 自分を確かめるような
賑やかで寂しいこの時代に 僕はどう生きよう
かわいい絵を散りばめた 飛行機が夢を乗せて
大空に羽ばたくこの時代に 僕は何をしよう

戦争の時代、飛行機乗りとして戦争に行ったおじいさん。おじいさんは帰ってきたけれど、たくさんの友が命を亡くした。そんなおじいさんを想っての曲です。私たち大人も、何をすべきか、何ができるか、考えなければなりません。集会では次のような話をしました。

一発の爆弾で多くの方が亡くなった。多くの方が犠牲になった。79年たった今でも、多くの方がその後遺症で苦しんでいる。でも、多くの日本人は、そのことを忘れている。もしかしたら、今日8月9日に原子爆弾が落とされたことを知らない人が多いかもしれない。

今日は、長崎県中の小学校、中学校、高校が登校日をし、平和について考え黙祷を捧げている。でも、それは長崎県だけ。よその県では、別の日が登校日になっている。日本人の多くが知らないのであれば、海外で暮らす大半の人が、原子爆弾が落とされたということを知らないかもしれない。みんなだって、世界中のどこで戦争が起き、どんな爆弾が使われているか知らないだろうから。

みんなは、長崎県に生まれ、育ち、そして学んでいる。8月9日は学校に登校して、原爆のことや戦争のことを当たり前前に勉強している。でも、それは当たり前のことではなく、長崎県に生まれたからこそできること。

だから、みんなには学校で学んだことをいろんな人に伝えていく役割がある。難しい言葉で言えば、これは長崎県に生まれた者の「義務」。しなければならないこと。

10年後、20年後、ここに住んでいる人もいれば、日本に限らずいろんな場所で生活している人もいるだろう。長崎県に生まれた者として、長崎県の学校で学んだ者として、自分の身近な人に、少しでもいいから戦争や原爆について、学んだことを伝えてほしい。

9月15日を大野木場の人たちが大切にしているのと同じように、8月9日11時2分を大切にしてほしい。